

# 高齢者実態調査のまとめ

## 1 介護保険サービスについて

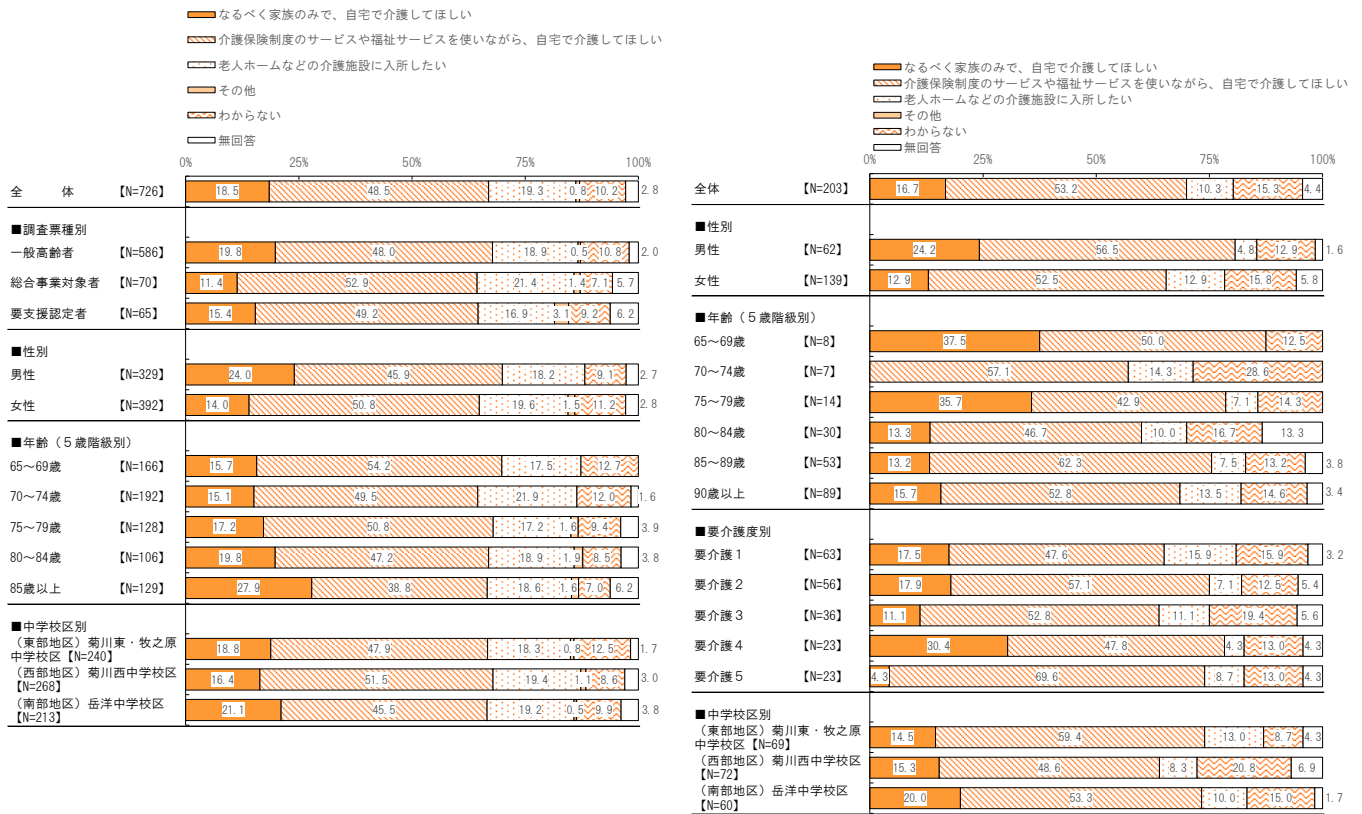
### (1) 暮らしの場（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査 より）

・市民の意向としては、施設入所への希望は2割未満となっており、在宅での生活意向が高い。

#### 《必要な施策》

- ◎介護が必要になった後も自宅で過ごしたい傾向が高いことから、家族介護者への支援等がより必要
- ◎また、在宅の意向が高いことから、終末期を自宅で過ごしたい人が多いことがうかがえるため、介護・医療のより一層の連携が必要
- ◎自宅で過ごすための介護予防の取り組みが一層重要
- ◎在宅志向が高いものの、施設入所希望者も一定数はいることから、施設枠の確保も必要

#### 問 どこで介護を受けたいか（ニーズ調査：Q56、実態調査：A票Q22）



(2) 介護保険サービスの普及啓発（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 より）

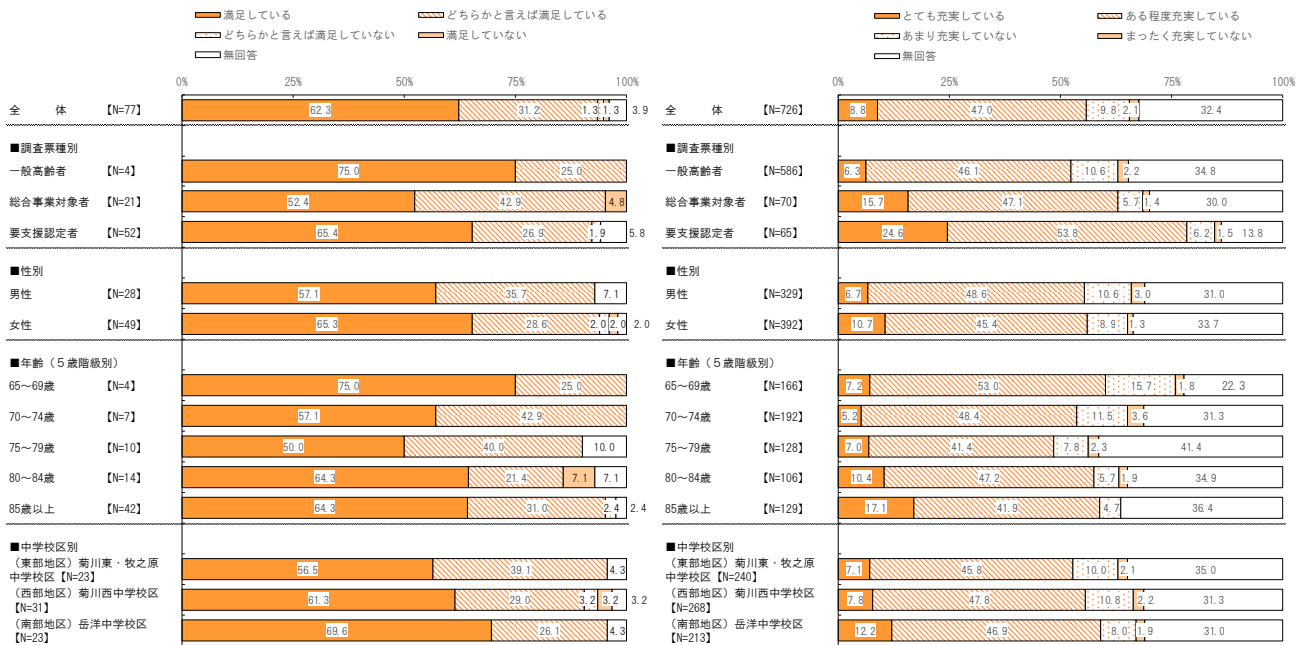
- ・ 介護保険制度全般の満足度に対しては、『満足』が9割近くを占め、高い満足度となっている。
- ・ 介護保険サービスの満足度は前回調査と変わらず高いものの、介護保険サービスの充実度は前回調査より低下している。

「必要な施策」

- ◎ 介護保険サービス利用者の声を聞き、充実度を高めるサービスの整備を進めることが必要
- ◎ 市民全体への介護保険サービスに関する、より一層の周知が必要

問 介護保険サービスの満足度 (Q58-2)

問 介護保険サービスの充実度 (Q60)



【参考】 前回（平成 28 年度）調査結果※要支援認定者のみ

問 介護保険サービスの満足度

(単位：%)

	満足している	どちらかと言えば満足している	どちらかと言えば満足していない	満足していない	無回答
要支援 (N=43)	55.8	37.2	7.0	0.0	0.0

問 介護保険サービスの充実度

(単位：%)

	とても充実している	ある程度充実している	あまり充実していない	まったく充実していない	無回答
要支援 (N=62)	21.0	58.1	8.1	0.0	12.9

### (3) 地域包括支援センター・総合相談支援センター（ブランチ）の普及啓発

(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 より)

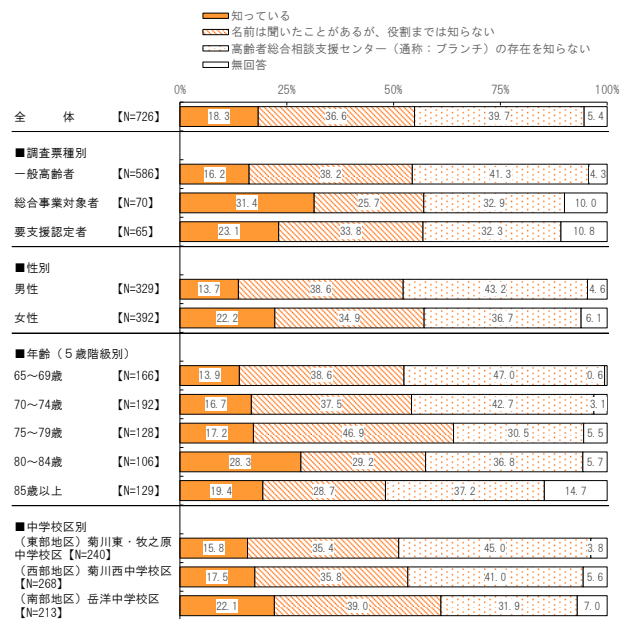
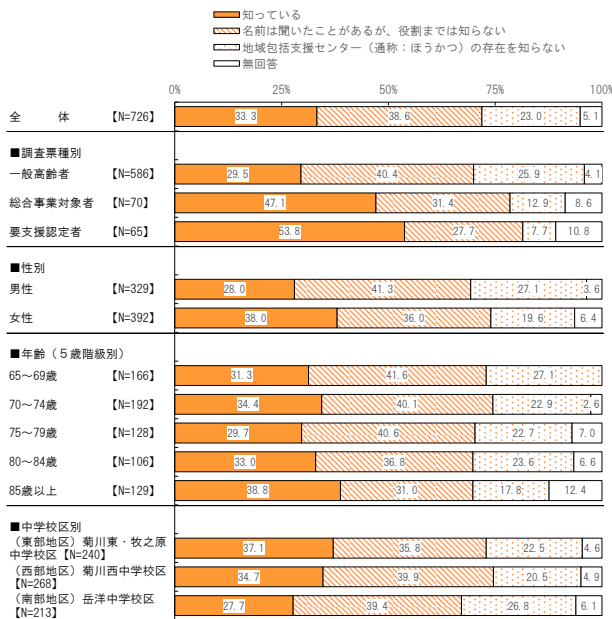
- ・地域包括支援センターの認知度は約7割、総合相談支援センターの認知度は約5割で、前回調査より認知度はやや高まっている。

#### 「必要な施策」

- ◎地域包括支援センターの名称の認知度は高いことから、役割（中身）についての周知が必要
- ◎総合相談支援センターの存在を知らない人が約4割いることから、地道な広報・周知活動が必要

問 地域包括支援センターの認知度 (Q54)

問 総合相談支援センターの認知度 (Q55)



#### 【参考】 前回（平成28年度）調査結果

##### 地域包括支援センターの認知度

(単位：%)

	知っている	名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない	地域包括支援センターの存在を知らない	無回答
全体 (N=725)	30.6	33.0	28.8	7.6
一般高齢者 (N=594)	29.5	33.8	29.8	6.9
事業対象者 (N=65)	27.7	30.8	32.3	9.2
要支援 (N=62)	45.2	27.4	14.5	12.9

##### 総合相談支援センターの認知度

(単位：%)

	知っている	名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない	高齢者総合相談支援センターの存在を知らない	無回答
全体 (N=725)	16.7	31.4	44.4	7.4
一般高齢者 (N=594)	17.2	30.8	45.6	6.4
事業対象者 (N=65)	10.8	32.3	44.6	12.3
要支援 (N=62)	19.4	37.1	30.6	12.9

## 2 介護予防に関する施策

### (1) 生活習慣病予防（介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 より）

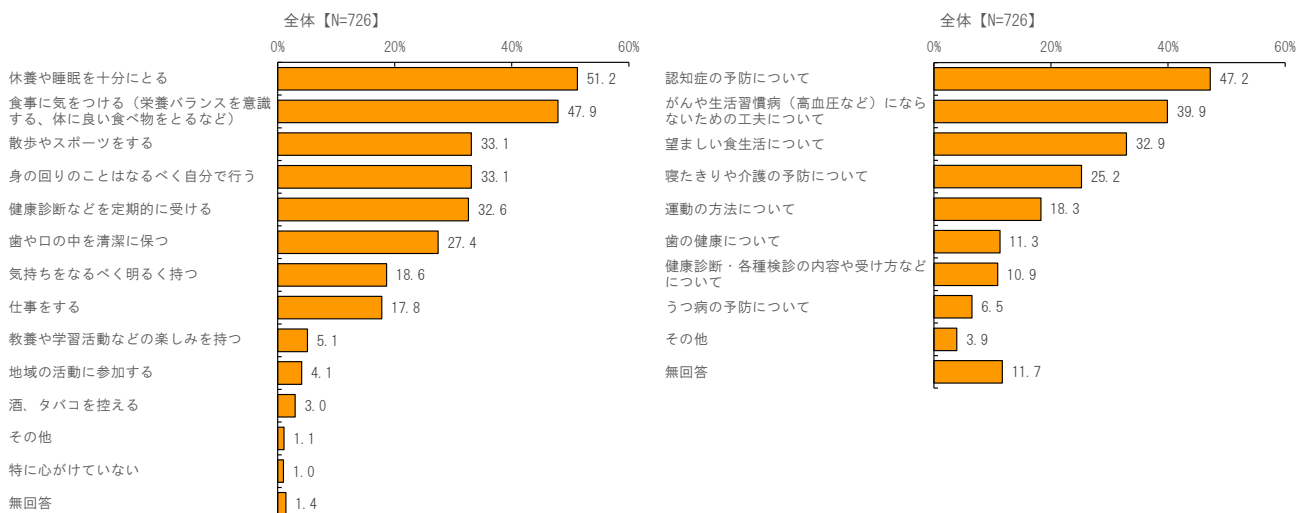
- ・一般・要支援認定者の方が健康のために心がけていることでは、「休養や睡眠」、「食事（栄養バランスを意識）」、「身の回りのことはなるべく自分で行う」などは多い傾向となっており、生活習慣病や食生活については自分自身で心がけていることが分かる。
- ・一般・要支援認定者の方が健康のために知りたいことでは、「認知症の予防」が最も多く、「がんや生活習慣病予防」、「望ましい食生活」などの希望が多い。

#### 《必要な施策》

- ◎すべての高齢者に対する認知症予防、生活習慣病予防、寝たきり予防等の介護予防の取り組みが重要
- ◎運動機能や口腔衛生に関する実施は少ない傾向にあることから、適度な運動や口腔衛生の啓発等に関する介護予防施策の充実が必要

#### 問 健康のために心がけていること（Q44）

#### 問 健康について知りたいこと（Q45）



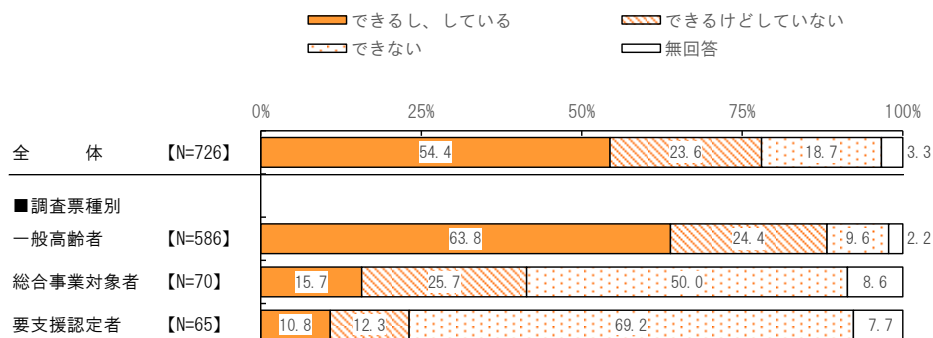
### (2) 運動機能の向上（介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 より）

- ・一般・要支援認定者の方の運動状況をみると、運動機能に関するすべての項目で、一般高齢者では「できるし、している」が多いのに対し、要支援認定者では「できない」の回答が多い。
- ・一方で、転倒状況では、一般高齢者に比べて要支援認定者で「何度もある」の割合が高い。

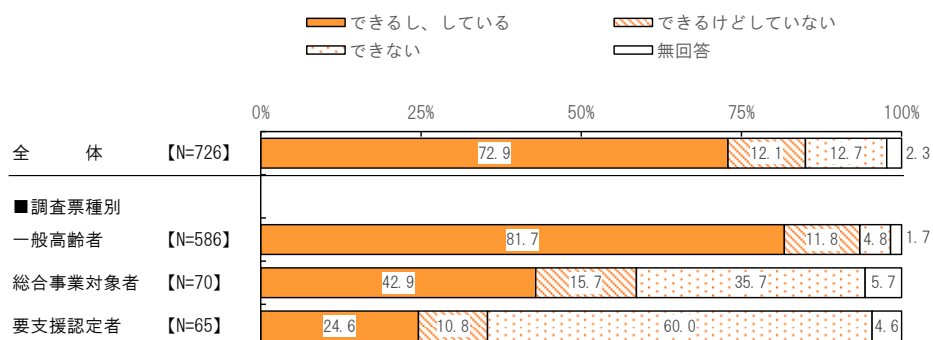
#### 《必要な施策》

- ◎介護が必要になる要因として、転倒による骨折やケガなども多いことから、運動機能の向上に関する対策が必要

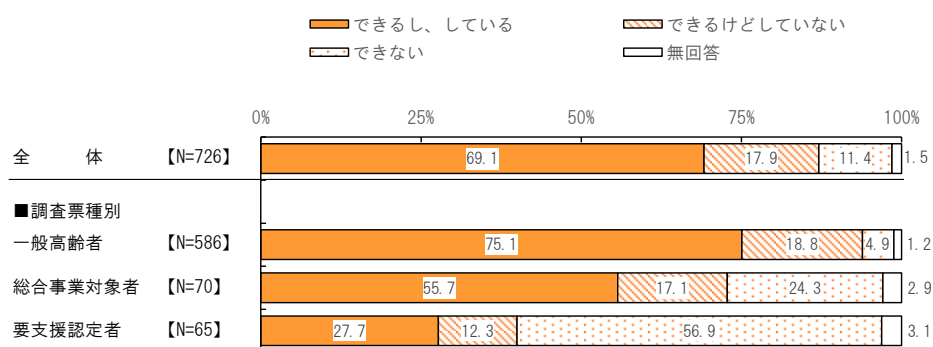
問 階段を手すり等つたわずらわずに昇れるか (Q7)



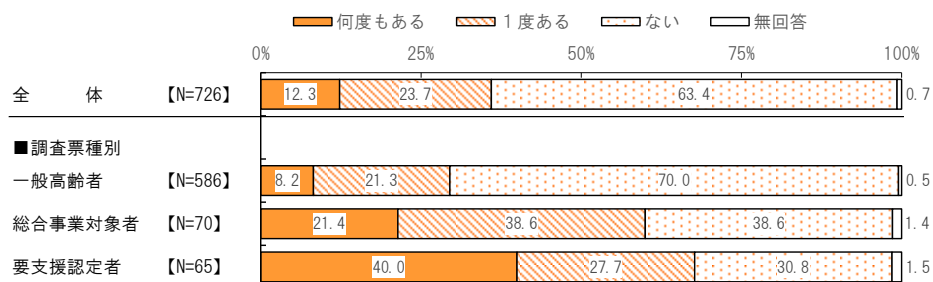
問 座った状態から何もつかまらずに立ち上げられるか (Q8)



問 15分位続けて歩いているか (Q9)



問 過去1年間に転んだ経験の有無 (Q10)



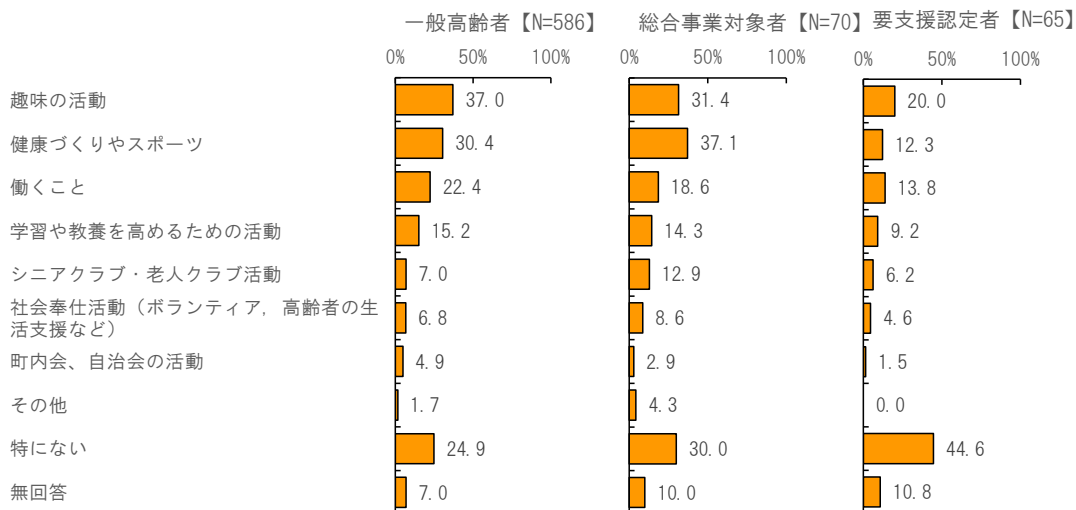
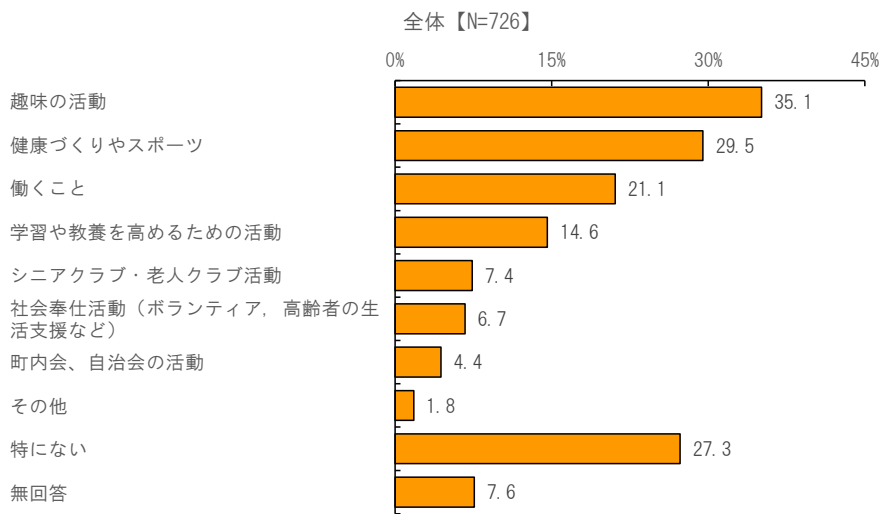
### (3) 健康づくり活動（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 より）

- ・ 今後やってみたいと思うことでは、趣味活動や健康づくり・スポーツ、就労等の回答が高い。
- ・ 要支援認定者では、「特にない」が4割以上と半数近くを占め、今後の活動への関心が低い。

#### 《必要な施策》

- ◎ 趣味活動や健康づくり・スポーツ、就労等に取り組める環境づくり、情報提供が必要
- ◎ 近年開発した「きくがわ体操」「菊川いきいき体操」の周知、活用が必要
- ◎ 要支援認定を受けている方では、活動に対して関心が低い結果があることから、要支援認定を受けないための介護予防を充実することで、地域で活躍する高齢者を増やすことが必要

#### 問 今後やってみたいと思うこと (Q47)



### 3 生活支援に関する施策

#### (1) 移動支援（介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 より）

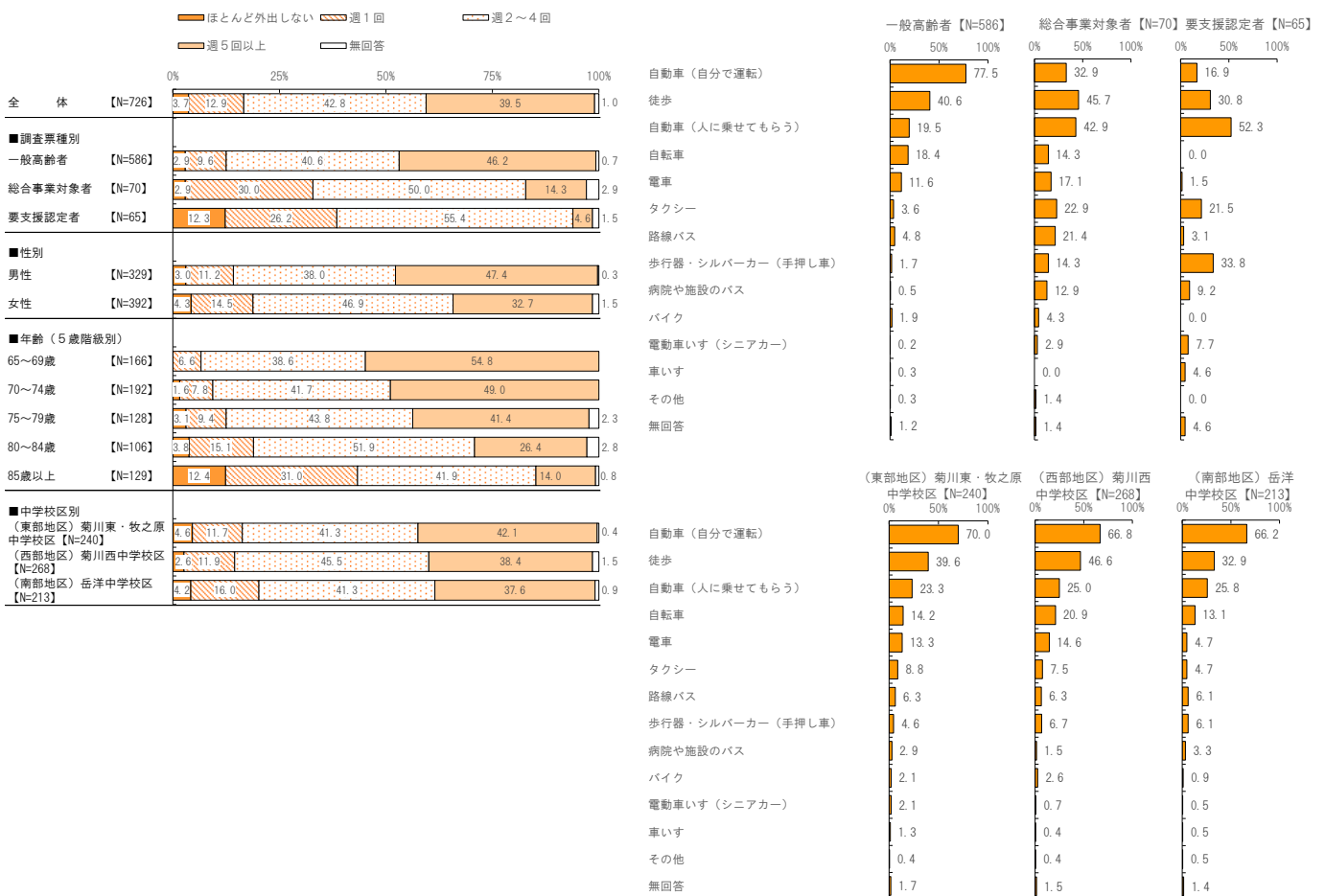
- ・外出頻度は「週1回以下」が16.6%あり、年齢が高くなるほど外出頻度は少なく、特に85歳以上でその割合が上がる傾向がみられる。
- ・一般高齢者よりも総合事業対象者、総合事業対象者よりも要支援認定者では外出頻度が少ない。
- ・外出手段をみると、一般高齢者では自分で運転する自動車や徒歩などの自力での移動、要支援認定者では人に乗せてもらう自動車や歩行器など、何かしらのサポートが必要な人が多い傾向がある。

#### 《必要な施策》

- ◎外出支援については、高齢者の中でも自力での交通手段の選択肢が少ない高齢層の高齢者が利用しやすい支援を実施していくことが必要
- ◎一般高齢者では自分で運転する自動車での外出が多いものの、高齢ドライバーによる事故の増加に伴う免許返納者の増加も予測されることから、今後の外出手段の確保に対する検討が必要

#### 問 外出頻度 (Q12)

#### 問 外出手段 (Q15)



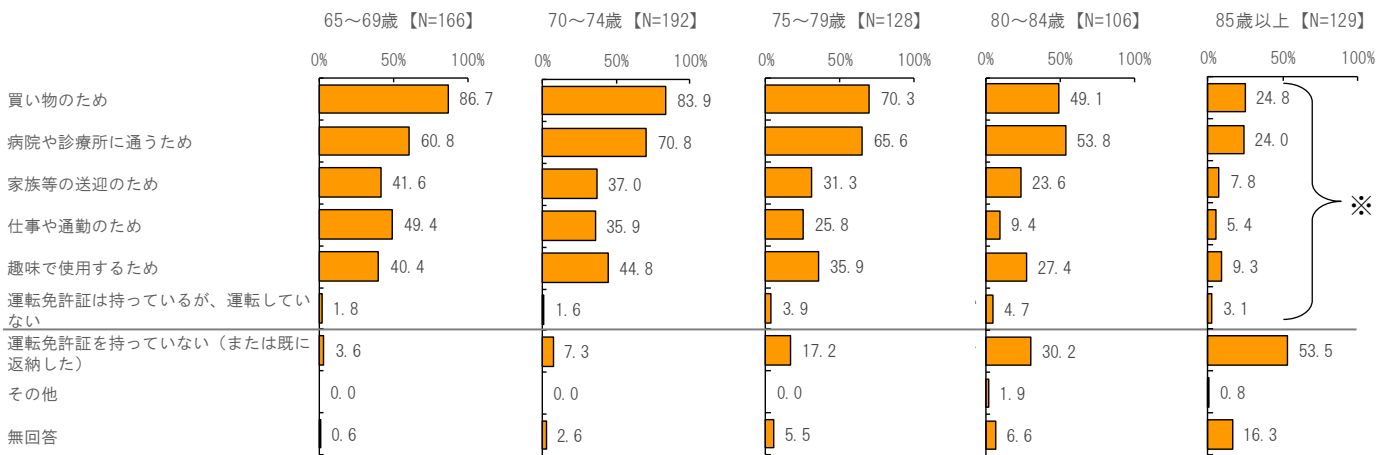
(2) 自動車の運転（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 より）

- ・ 運転する目的は、「買い物のため」が各年齢層とも最も多く、80～84歳では「病院や診療所に通うため」が最も多い。
- ・ 免許の返納については、『返納意思のある人』が約3割で、「返納を考えていない」人は南部地区にやや多い。

《必要な施策》

- ◎ 免許返納者の増加に対応できるよう、買い物や通院を支援するための取り組みを充実させることが必要
- ◎ 特に南部地区をモデルケースとした取り組みを開始することが必要

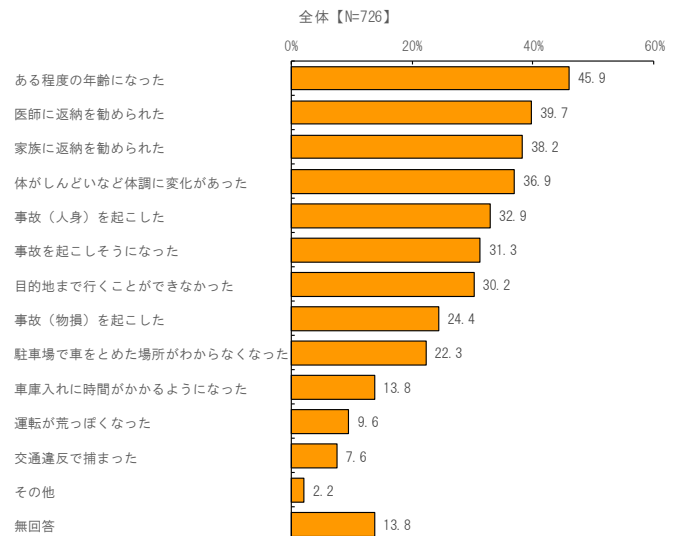
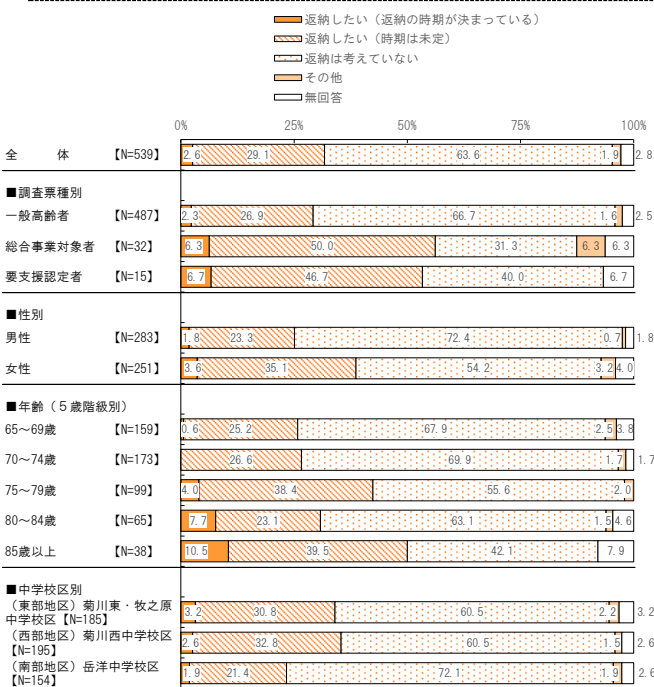
問 運転する目的 (Q52)



※『現在運転している』

問 返納についての考え (Q52.1)

問 免許を返納すべきタイミング (Q53)





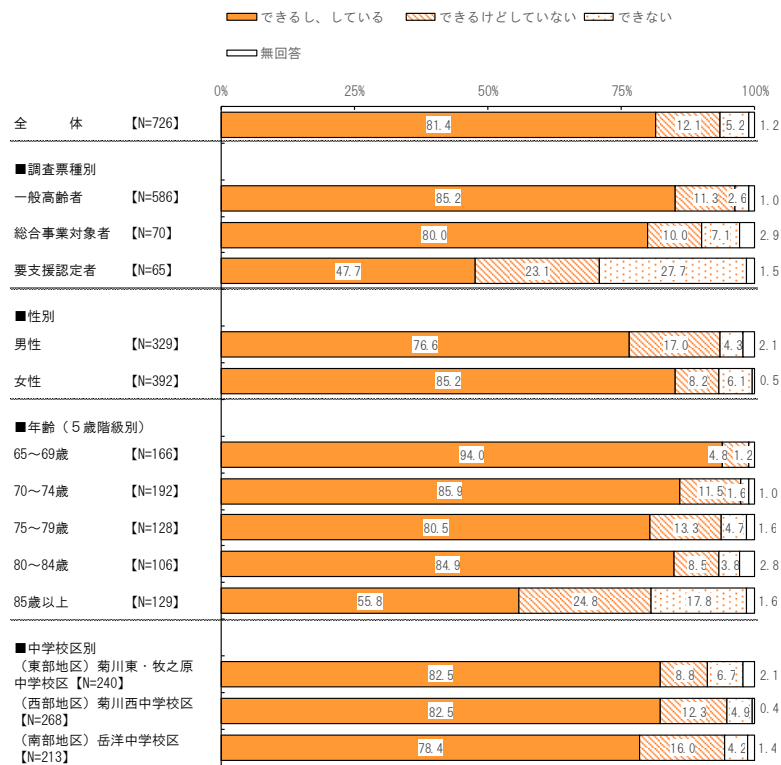
### (3) 買物支援（介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 より）

- ・食品・日用品の買物では、84歳までは「している人」の割合が8割程度なのに対し、85歳以上で約半数と顕著な落ち込みを見せている。
- ・また、一般高齢者に比べて要支援認定者では「できない人」が多くなっている。
- ・中学校区別にみると、東部・西部地区に比べて、南部地区で「している人」の割合がやや少ない傾向がある。また、「できない人」の割合が南部地区でやや多い。

#### 《必要な施策》

- ◎外出支援と同様に、高齢者の中でも自力での交通手段の選択肢が少ない高齢層の高齢者が利用しやすい支援を実施していくことが必要
- ◎自動車の運転と同様に、地域別では、南部地区をモデルケースとした取り組みを開始することが必要

#### 問 食品・日用品の買い物の状況（Q22）



#### (4) 地域での相互協力（介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 より）

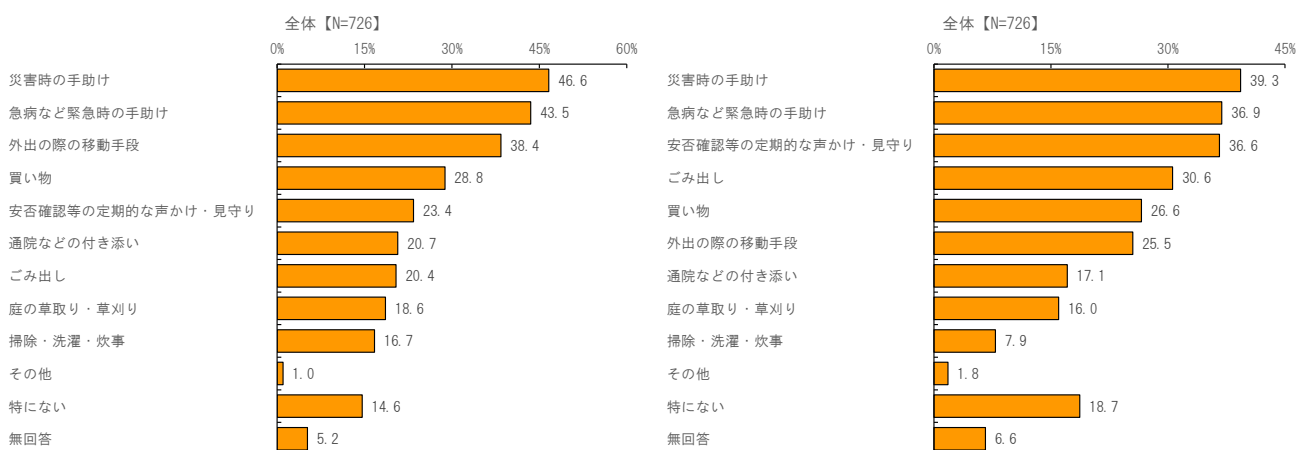
- ・地域の人に“してほしい支援”と、逆に自分が近隣の人に“してあげられる支援”を比べると、例示した9項目は、ほぼ同じような割合となっている。

#### 《必要な施策》

◎“してほしい”と“してあげられる”の割合に近い項目が多いことから、高齢者同士の『互助』を推進する地域組織や仕組みづくりが必要

問 地域の人にしてほしい支援（Q35）

問 近隣の人にしたい支援（Q36）



## 4 在宅介護の継続に向けた施策

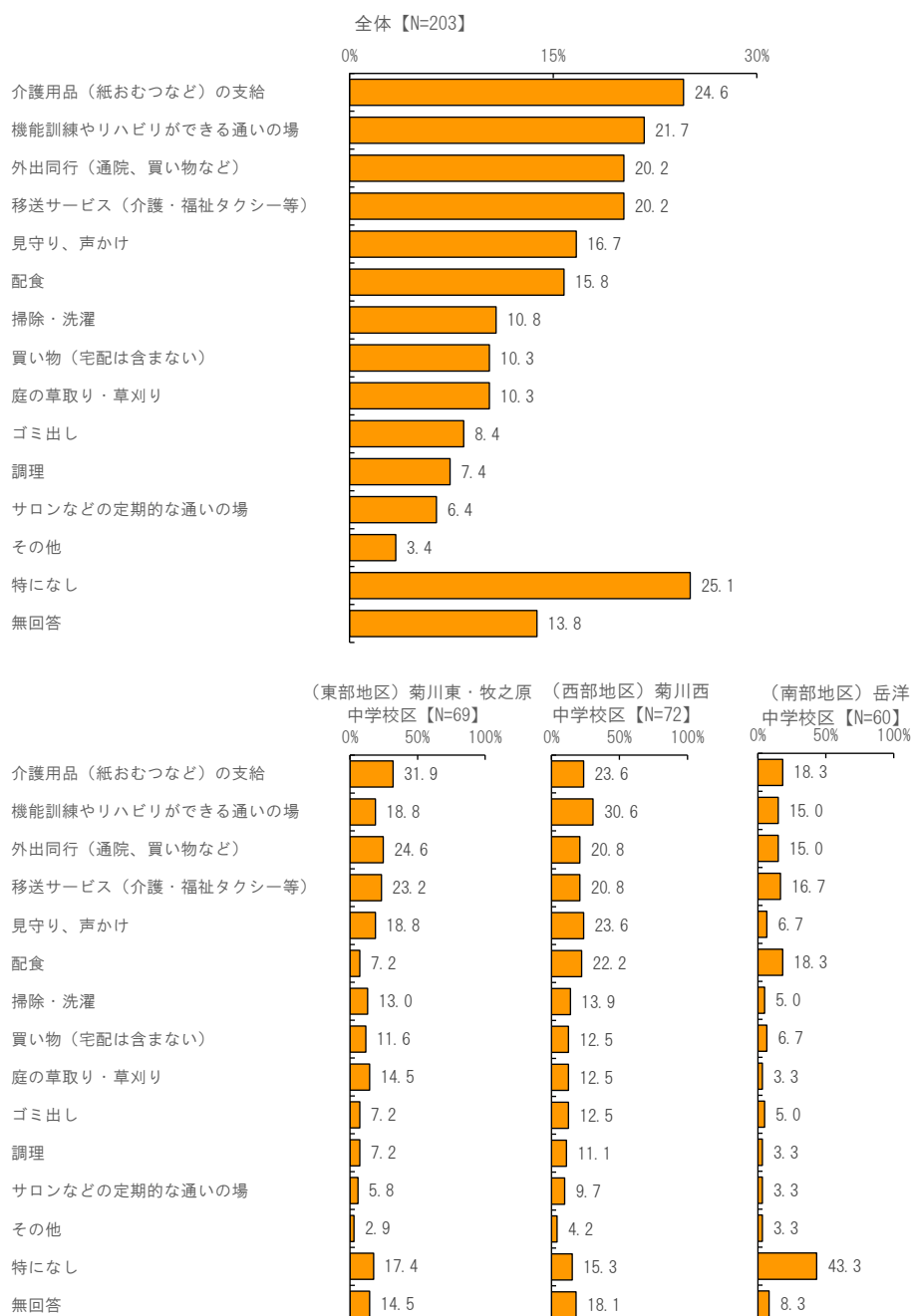
### (1) 在宅生活を支えるサービス（在宅介護実態調査 より）

- ・在宅生活の継続に向けて必要と感じるサービスでは、介護用品の支給、機能訓練・リハビリなどの通いの場、外出同行、移送サービスを望む人が多い結果となっている。
- ・中学校区別にみると、東部地区では介護用品の支給、西部地区では機能訓練・リハビリなどの通いの場、南部地区では介護用品の支給と配食が最も多くなっている。

#### 《必要な施策》

- ◎地域によって求められる支援・サービスに違いがみられることから、地域特性に合った支援・サービスを検討して実施していくことが必要

#### 問 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（A票 Q8）



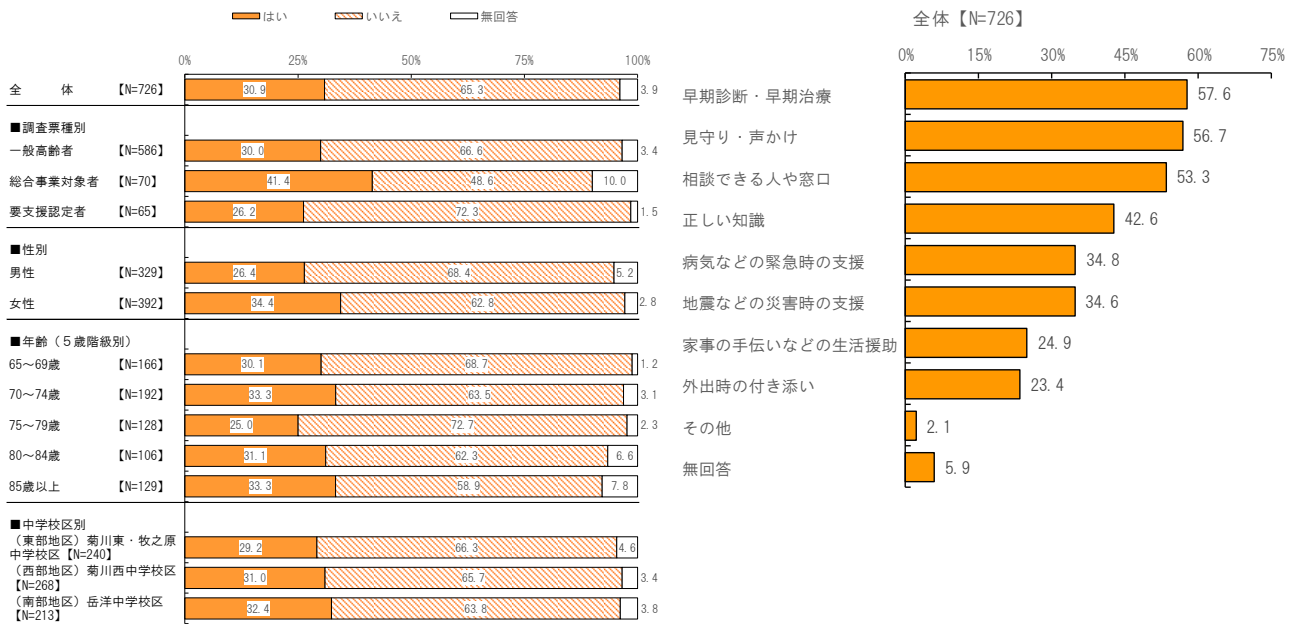
(2) 認知症状への対応 (介護予防・日常生活圏域二一ズ調査、在宅介護実態調査 より)

- ・介護者が不安に感じている介護では、認知症状への対応や排泄、入浴・洗身、外出の付き添い・送迎などの項目で、割合が高くなっている。

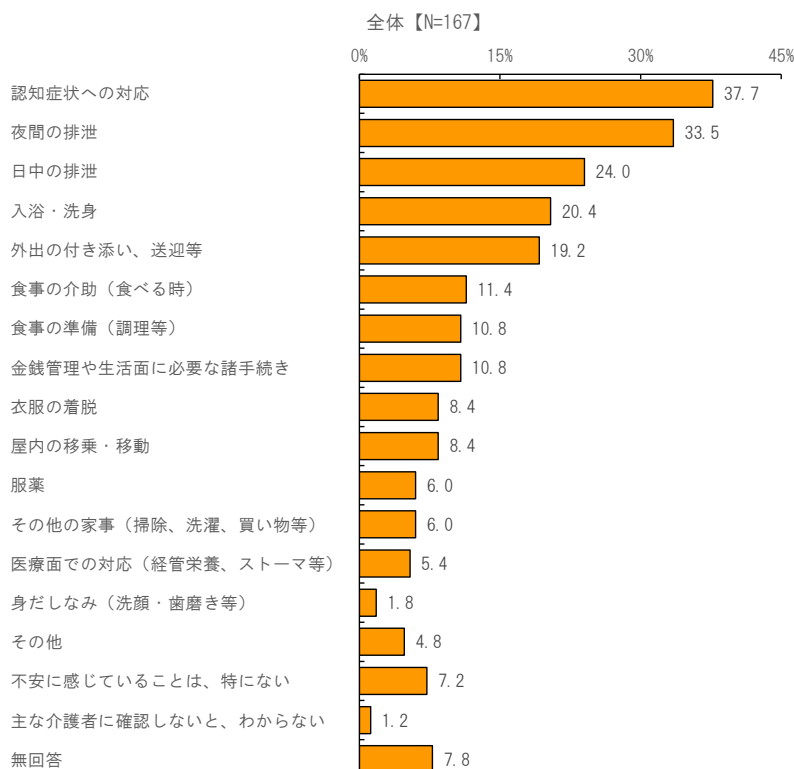
《必要な施策》

- ◎認知症に対する不安を払拭し、予防やリハビリの取り組み等が進められるよう、家族介護者への支援を充実していくことが必要
- ◎排泄の世話、入浴の仕方等、要望の高い項目から優先的に介護者支援を充実していくことが必要

問 認知症に関する相談窓口の認知 (Q49) 問 認知症があっても地域に住み続けるには (Q51)



問 介護者が不安に感じる介護 (B票 Q2)



### (3) 自宅介護への課題（在宅介護実態調査 より）

- ・ 自宅での介護を継続していくための課題では、緊急時の対応、介護者の体調（介護者の高齢化）、仕事との両立の割合が高くなっている。

#### 《必要な施策》

- ◎ 自宅での介護を望む人が多い一方で、実際に家族による介護を実施している方の考える課題では、緊急時の対応が突出して高いことから、緊急時でも安心できる取り組みを検討していくことが必要
- ◎ 仕事と介護との両立支援が必要（在宅サービスの充実や企業への働き方改革の呼びかけ等の充実が求められる）

#### 問 自宅での介護を継続していくための課題（B票 Q5）

